

新潟県建設業協会の上越、安塚両支部の青年部は12日、上越市の上越建設会館で三方良しの公共事業改革勉強会を合同開催した。県土木部の出先機関の職員や管内の建設企業の担当者ら約80人が参加。県土木部監理課の阿部信隆政策企画員が「三方良し」の概要を説明したほか、実際の仕事をモデルにして、工事目標を共有していく作業や工期短縮のための工程見直し作業などをワークショップ（WS）形式で行った。写真。



冒頭、上越支部青年部の三

牧好起部長は、「公共事業への風当たりが強い中でもわれわれは、良い現場をつくるため、地域のために地道に仕事をしている。（そうした実態を）住民に理解してもらうには受注者だけでは難しい。非常に意義があったと評価する一方、「住民には、OD

新潟建協青年部

## 目標共有で信頼関係 官民が三方良し勉強会

趣旨を説明した。

阿部企画政策員は、県土木部の2013年度予算の概要書には、事業の進め方の方針として「三方良し」を明示していることを紹介した上で、受発注者が工事目標を共有したり、協働して工程表を作成していくことの意義と効果を強調した。

続いて安塚支部で三方良しに取り組んでいる太陽開発の

担当者、同社が施工している工事での取り組み状況を報告した。工事目標を共有したり、施工計画の検討にも発注者に参加してもらったことで現場がスムーズに運営でき、非常に意義があったと評価する一方、「住民には、OD

勉強会を総括し、県上越地域整備部の加納行弘計画調整課長は「三方良しは受発注者がしっかりコミュニケーションをとり、信頼関係をつくっていく。それが一番大切なことだ」と講評した。

最後に建協安塚支部の荒木克青年部長が「きょうは工程管理などの手法が勉強の中心だったが、三方良しは受発注者が一緒に住民の方を向いて仕事をするという理念が最も重要だ。皆さんがきょうの勉強成果を会社に持ち帰り、旗振り役になってほしい」と呼び掛けた。

実際の工事をモデルにしたWSは、参加者が官民で構成する10班に分かれ、上越支部の大島組が受注した県工事をモデルに、工事目標の共有化や工程表作成、工期短縮のための各作業を行った。工期短縮の取り組みでは、各工種に見込んでいたサバ（余裕）を削り取り、ぎりぎりの実工期を算出するなどの作業を体験した。

